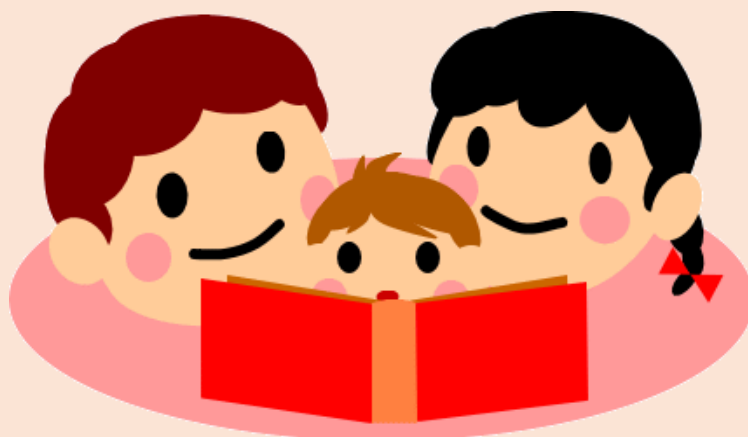


第四次愛知県子供読書活動推進計画（改定版）

～未来へつなぐ、いつも本のある暮らし～



2024年3月



愛知県教育委員会

「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）」では、子供の読書活動について、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」としています。

愛知県では、2004年に「愛知県子ども読書活動推進計画」を策定し、およそ5年ごとに改定しながら、全ての子どもたちが自主的に読書活動ができるよう取組を進めてきました。その結果、子どもたちが読書に親しむ環境は整いつつありました。

しかし、2019年度末からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校の臨時休校、図書館の臨時休館や開館時間の短縮、読み聞かせ会等のイベントの中止など、読書活動を推進する取組を計画どおりに実施することができない状況が続きました。

コロナ禍により子供の読書活動が一時的に停滞してしまいましたが、読書は子供が成長していく上で欠くことができないものです。子供が本に触れ、読書の楽しさを知り、本を読む機会を増やすためには、より身近な生活の中に読書を取り入れていく必要があると考えます。

そこで、この度、「第四次愛知県子供読書活動推進計画」（以下、「第四次推進計画」という）を見直し、2025年に次期あいちの教育ビジョン（教育振興基本計画）に統合することを見据え、現行の「第四次推進計画」を改定しました。

今後、愛知県は、この計画を基に積極的な取組を進め、家庭、地域、学校等がそれぞれの役割を果たしながら、読書を取り入れた生活習慣を確立することを促し、豊かな感性と思考力・判断力・表現力を身に付け、「生きる力」を備えた子供を育てていけるよう、子供の読書活動を推進していきます。

2024年3月

愛知県教育委員会

目 次

第1章 第四次推進計画の改定に当たって	1
1 計画改定の背景と趣旨	1
(1) 第四次推進計画策定までの経緯	
(2) 改定の背景と趣旨	
2 第四次推進計画期間における評価	2
3 愛知県の読書を取り巻く現状	6
4 第四次推進計画（改定版）に向けた課題	12
第2章 第四次推進計画（改定版）の基本的方針	13
1 基本方針	13
2 基本目標と方策	14
第3章 第四次推進計画（改定版）における基本目標と具体的方策	16
<基本目標1> 家庭、地域、学校等における取組の充実	16
方策1 家庭における発達段階に応じた取組の推進	16
方策2 地域における発達段階に応じた取組の推進	18
(1) 公立図書館 ア 県図書館 イ 市町村立図書館	
(2) 公民館・児童館	
(3) NPO・ボランティアグループなどの民間団体	
方策3 学校等（幼稚園・保育所を含む）における発達段階に応じた取組の推進	29
(1) 教育活動全体を通じた読書活動の推進	
(2) 魅力ある学校図書館作りの推進	
<基本目標2> 子供読書活動推進支援の一層の充実	37
方策4 普及啓発活動の推進	37
方策5 家庭、地域、学校等相互及び図書館間等の連携・協力の推進	40
方策6 子供読書活動推進体制の整備	43
第四次推進計画（改定版）における数値目標	45
第四次愛知県子供読書活動推進計画（改定版）注釈集	46
参考資料	51
1 第四次愛知県子供読書活動推進計画における数値目標の進捗状況	
2 愛知県子供読書活動推進協議会開催要項・委員名簿	
県民の皆様へ	56

第1章 第四次推進計画の改定に当たって

1 計画改定の背景と趣旨

(1) 第四次推進計画策定までの経緯

○ 2001年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」（以下「推進法」という。）が施行され、全ての子供^{*1}が自主的に読書活動ができるよう、環境の整備を推進することが基本理念とされました。また、同法第9条第1項で都道府県が「子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならない」と規定されました。

○ 国は、2002年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（以下「基本計画」という。）を策定しました。その後、子供の読書活動を取り巻く状況の変化等を踏まえ、2008年3月に第二次基本計画、2013年5月に第三次基本計画、そして2018年4月には第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（計画期間：おおむね5年（2018～2022年度））を策定しました。

国は第三次基本計画期間における課題として、不読率^{*2}がいずれの世代においても計画で定めた進度での改善は図られておらず、特に高校生が依然として高い状況にあることなどを挙げています。これを受け、第四次基本計画では、高校生の不読率については、多数の高等学校を所管する立場から都道府県が市町村と連携しつつ施策を推進するよう努めることが示されました。

○ 本県では、国の基本計画を踏まえ、全ての子供が自主的に読書活動ができるよう、2004年3月に「愛知県子ども読書活動推進計画」、2009年9月には「第二次愛知県子ども読書活動推進計画」、2014年3月には「第三次愛知県子ども読書活動推進計画」を策定して取組を進めてきました。

国の第四次基本計画及び本県におけるこれまでの計画の取組やアンケートによる現状把握を踏まえて明らかになった課題に対応するため、2019年3月に、「第四次推進計画」を策定しました。

(2) 改定の背景と趣旨

ア 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症は、社会に計り知れない影響を及ぼし、人々の生活を大きく変化させました。こうした中、2019年度末からの約2年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、学校の臨時休校、図書館の臨時休館や開館時間の短縮、読み聞かせ会等のイベントの中止など、子供の読書活動を推進する取組を約2年間計画どおりに実施できない状況でした。

イ 2022年度地方からの提案等に対する国の対応

2022年度地方からの提案募集において、本県は長野県と共同して地域の実情に沿った子供読書活動の推進を図るとともに、業務の負担軽減、効率化につなげるために子供読書活動推進計画の上位計画の統合を可能とすることを提案しました。その結果、本県の提案が認められ、都道府県及び市町村の子供読書活動推進計画の策定については、地方公共団体の判断により、教育振興基本計画等の上位計画をもって当該団体の子供読書活動推進計画に代えることができるとされました。

ウ 今後の子供読書活動計画の位置付け

2023年末に現計画の期間が満了しますが、2025年度に子供読書活動推進計画を次期あいちの教育ビジョン（教育振興基本計画）に統合することとし、統合までの対応として第四次推進計画の取組がコロナ禍で2年間推進できなかったことも鑑み、現計画を2年間延長します。

なお、今回の見直しでは、第四次推進計画を継続して推進するため、第四次推進計画の改定版とします。

2 第四次推進計画期間における評価

本県の第四次推進計画では、価値観が多様化している現代において本を読むという文化を未来へつなぎ、社会全体で読書の大切さを伝え、その担い手を育成していくため次の基本理念と二つの基本目標を設けました。この基本目標を達成するため、それぞれの方策を明確にした上で、本県の実情を踏まえ、施策の方向性を示し、取組を進めてきました。第四次推進計画（2022年時点）における基本目標ごとの評価は、次のとおりです。

基本理念

未来へつなぐ、いつも本のある暮らし

第四次推進計画における二つの基本目標

基本目標1：家庭、地域、学校等における取組の充実

基本目標2：子供読書活動推進支援の一層の充実

(1) 基本目標1：家庭、地域、学校等における取組の充実

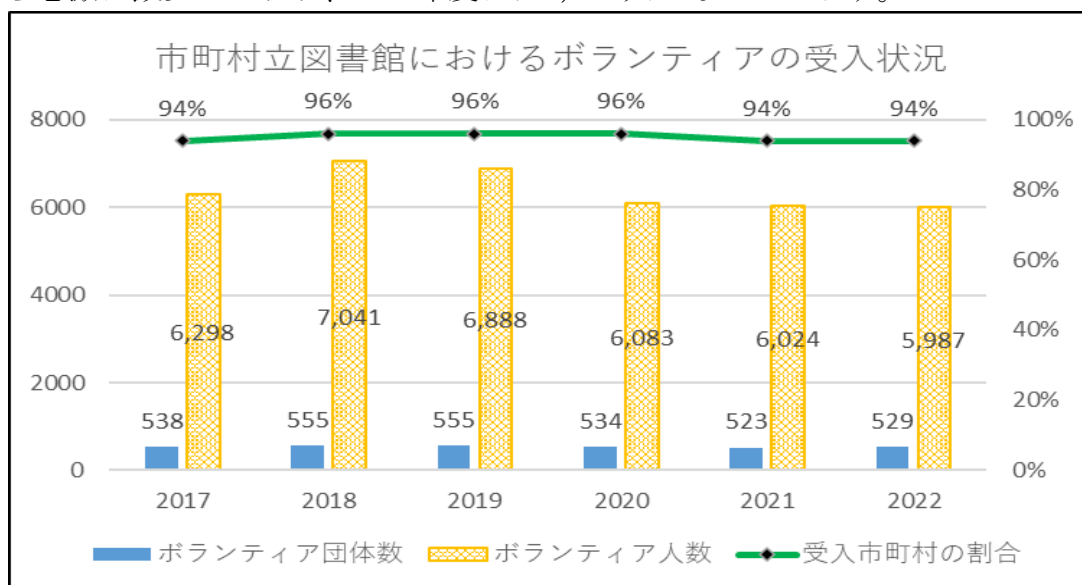
評価

◆ 家庭における発達段階に応じた取組の評価

- 市町村によるブックスタート※4事業の取組の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響で2017年度の96%から2022年度に93%と減少しています。

◆ 地域における発達段階に応じた取組の評価

- 愛知芸術文化センター愛知県図書館（以下「県図書館」という。）では、図書館未設置町村（5町1村）の公民館図書室等に図書の貸出支援を行いました。
- 県図書館では、県内全域の資料（図書館における図書や視聴覚資料等の総称）提供機能を果たすため、週1回の資料搬送定期便を運行し、資料支援ネットワークの安定的な運用に努めました。
 県内公立図書館等の蔵書を一括して検索できるシステム、県内図書館横断検索「愛蔵くん※⁵」には、県図書館と50市町村の図書館や公民館図書室のほか、専門図書館3館※⁶が参加しています。
- 県図書館における児童図書の年間貸出冊数は、新型コロナウイルス感染症の影響により入館者数が減少した2019・2020年度を除き、近年では概ね8万冊台で推移しています。
- 市町村立図書館では、9割以上が読み聞かせなどのボランティア活動の受入れをしています。活動する団体数は、新型コロナウイルス感染症の影響で2019年度から減少しましたが、2022年度には増加しています。
 また、活動人数は新型コロナウイルス感染症の影響が甚大であった2020年度から急激に減少しており、2022年度には5,987人となっています。



資料：愛知県教育委員会「子供の読書活動推進に関する調査」

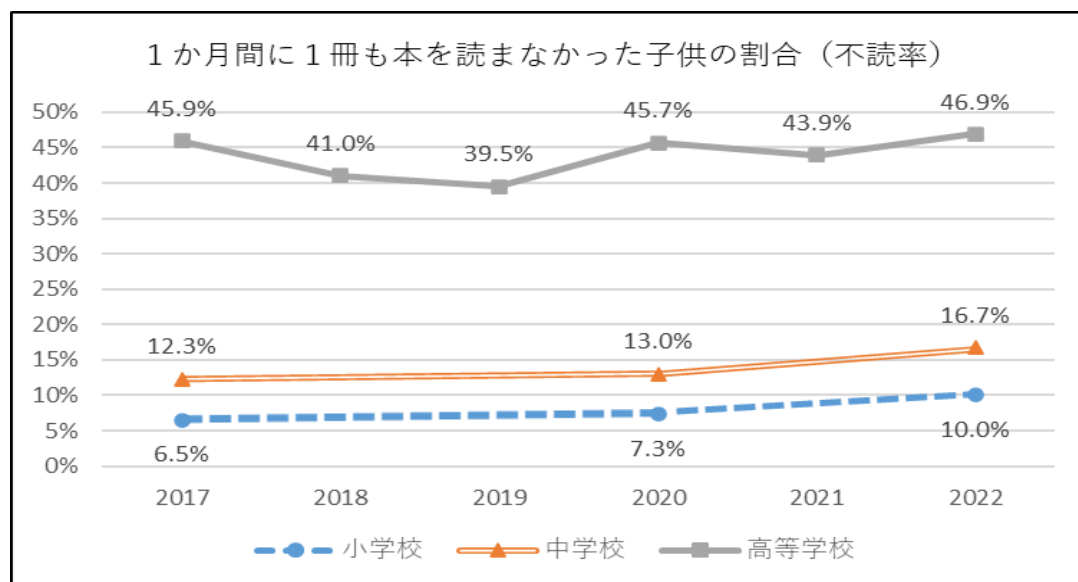
◆ 学校等（幼稚園・保育所を含む）における発達段階に応じた取組の評価

- 全校一斉読書の実施率は、計画現況値と比較すると小・中学校では下降に転じ（小学校92%、中学校85%）、高校では上昇しています（高校30%）。
- 全校一斉読書以外の読書活動推進の取組として、本の読み聞かせやブックトーク※⁷の実施、推薦図書コーナーの設置、図書館まつりや読書週間（月間）、「子

ども読書の日」における行事の開催、学校図書館に関する広報活動などが行われています。

- 特別支援学校における全校一斉読書以外の読書活動の実施率は、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度調査では下降に転じましたが（63%）、2022年度調査では大幅に上昇し、計画現況値を上回りました（82%）。
- 学校種ごとの不読率は、2017年度は小学校で6.5%、中学校で12.3%、高等学校で45.9%でした。この5年間の推移を見ると不読率の割合は上昇傾向にあり、2022年度には、小学校で10.0%、中学校で16.7%、高等学校で46.9%になっています。

（2022年度全国の不読率：小学校6.4%、中学校18.6%、高等学校51.1%）



資料：愛知県教育委員会「第四次愛知県子供読書活動推進計画の進捗状況調査」（2017～2022）、「愛知県子供読書活動実態調査」（2022年11月実施） いずれも対象校は無作為抽出
小・中学校は2020、2022年度、高校は毎年調査を実施

(2) 基本目標 2：子供読書活動推進支援の一層の充実

評価

◆ 「子ども読書の日」を中心とした普及啓発の推進

- 「子ども読書の日※⁸」（4月23日）「こどもの読書週間」（4月23日～5月12日）や「文字・活字文化の日※⁹」から始まる「読書週間」（10月27日～11月9日）に合わせて、各種イベントを開催するとともに、ポスターの掲示、チラシの配布などによる広報活動を行いました。
- 「青少年によい本をすすめる県民運動※¹⁰」において、2017年度の読書感想文・感想画の応募数は24,323通でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響等により

減少し、2022年度は11,864通でした。愛知県書店商業組合の協賛により、応募学校には図書を送贈し、個人応募者には記念品を贈呈しました。

◆ 子供の読書活動に関する情報の収集・提供

- 各種調査を実施し、市町村で行われている子供の読書活動を推進する事業や、読書ボランティアの活動状況、第四次推進計画の進捗状況等の情報を愛知県教育委員会のウェブページに掲載しました。

◆ 優れた取組の奨励、優良な図書の普及

- 本県では2019年度から2023年度までの5年間で子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）に対する文部科学大臣表彰を15校（小学校8校、中学校1校、義務教育学校1校、小中一貫校1校、中高一貫校1校、高等学校2校、特別支援学校1校）、5館、8団体が受賞しました。

受賞した優れた取組を愛知県教育委員会のウェブページで紹介しました。

- 民間企業と連携し、推薦本の一部を紹介する記事を高校生向けフリーペーパーに掲載し配布しました。

◆ 家庭、地域、学校等相互及び図書館間等の連携・協力の推進

- 学校図書館の資料を充実させるため、県図書館はテーマごとにまとめた数の資料を貸し出すサービスを実施しました。しかし、このサービスでは、貸出しの際には、県図書館が送料を負担しますが、返却する時は、学校図書館が送料を負担することになっており、そのため、活用が進んでいない状況がありました。そこで、地元の市町村立図書館を経由して学校に資料を搬送し、学校図書館にとって送料の負担が発生しない協力貸出を導入し、対象校は2022年度末には県立学校22校となっています。

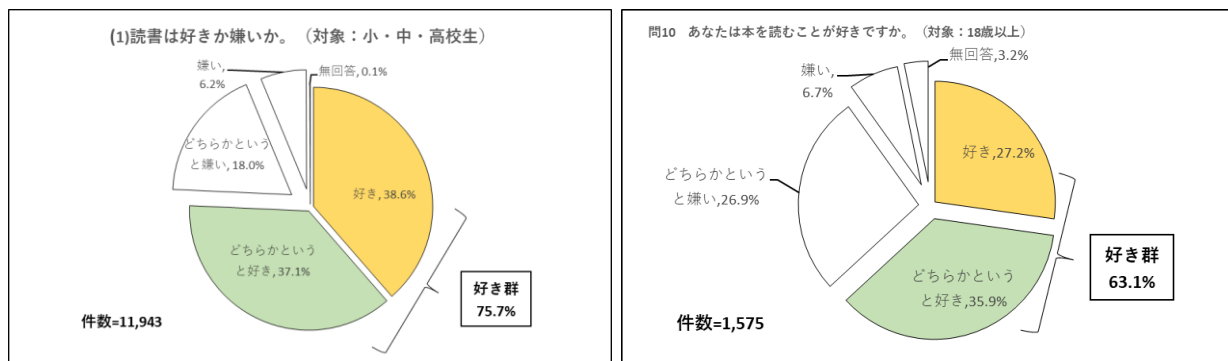
- 公立図書館から学校への資料貸出しなど、公立図書館と学校図書館との連携が進み、利便性が高まりました。

◆ 子供読書活動推進体制の整備

- 市町村推進計画の策定率は2017年度の72%から2022度には80%へ増加しました（52 ページ参照。市の策定率95%、町村の策定率44%）。
- 計画期間中毎年1回「愛知県子供読書活動推進大会※11」を開催し、子供の読書活動に関わる人材の育成や、人的ネットワークの形成を図りました。

3 愛知県の読書を取り巻く現状

この節では、「愛知県子供読書活動実態調査※12」（2022年11月実施。以下「愛知県実態調査」という。）「学校図書館の現状に関する調査※13」（2022年10月実施。以下「学校図書館調査」という。）から、コロナ禍における子供の読書活動の現状について検証しました。



資料：愛知県実態調査（2022.10）

資料：2022年度県政世論調査（18歳以上対象）

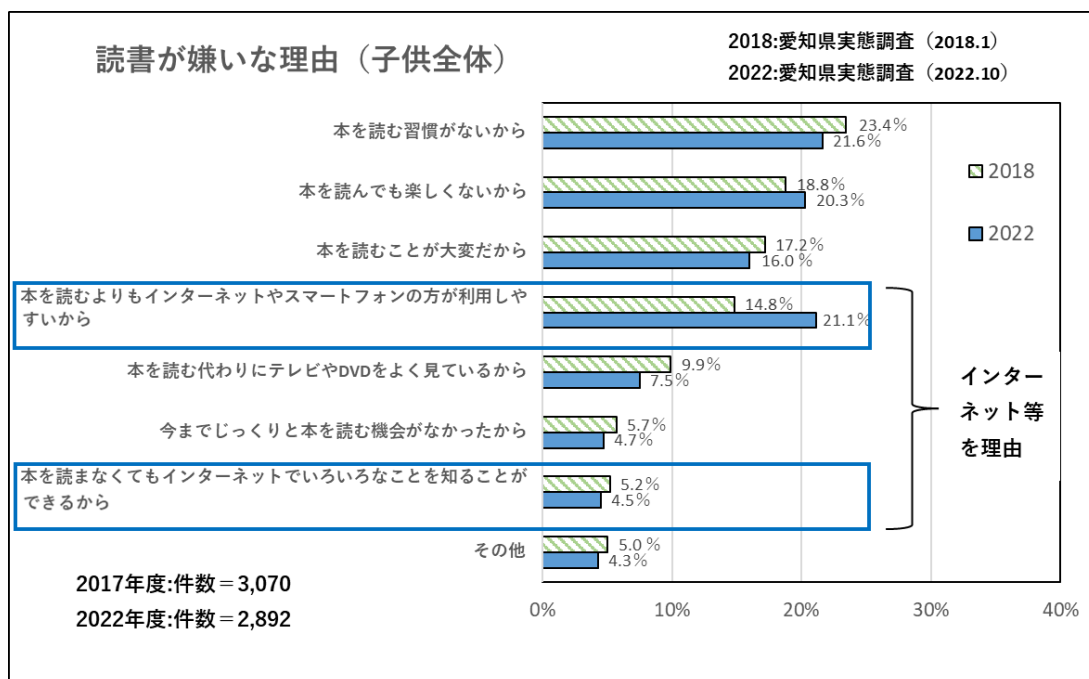
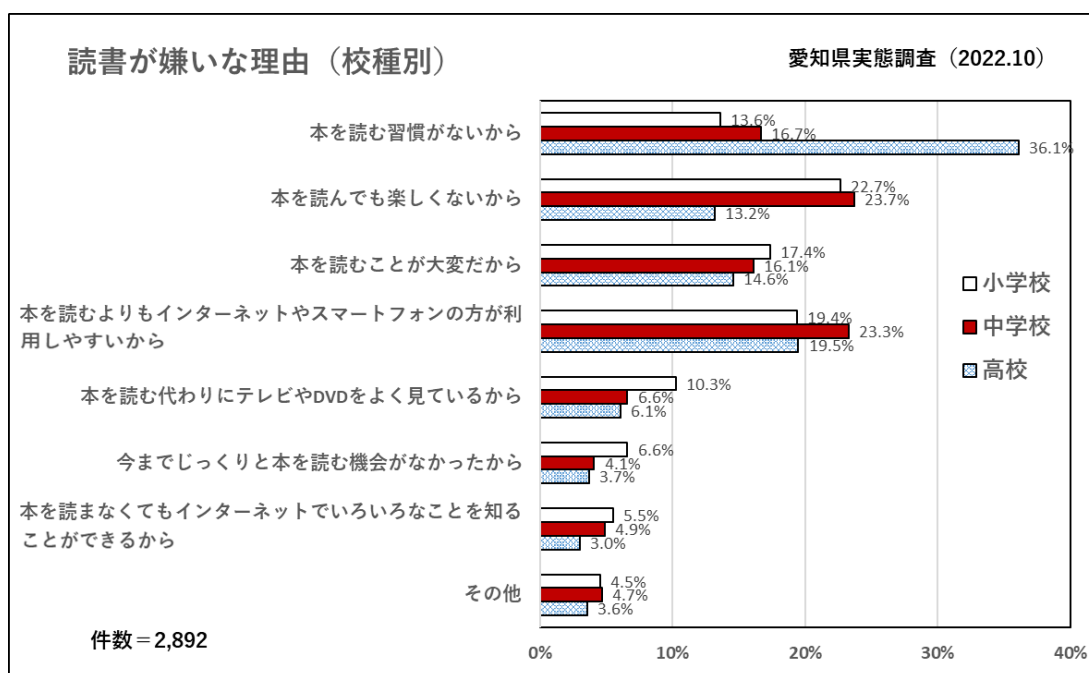
愛知県実態調査の特徴としては、「あなたは読書が好きですか。それとも嫌いですか。」という質問から始め、児童生徒を読書が「好き」、「どちらかというが好き」と回答した子供（以下「読書好き群」という。）と読書が「嫌い」、「どちらかといえば嫌い」と回答した子供（以下「読書嫌い群」という。）とに分類し、同一の質問項目に回答をすることで、それぞれの傾向を明らかにしました。これは、第四次推進計画策定時に実施した調査（2018年1月実施。）と共通で、経年比較が可能になっています。その結果については次のとおりです。

(1) 読書が「好き」か「嫌い」か

読書好き群の割合は、小学校で82.5%、中学校で72.2%、高等学校で70.4%であり、学校段階が進むにつれ、読書好き群の割合は減少し、読書嫌い群の割合が増加していきます。しかし、小・中・高を合わせた子供全体で見ると4分の3以上が読書好き群に属します。これは5年前と変わらない傾向です。また、18歳以上の一般県民に対する調査と比較しても高水準でした。

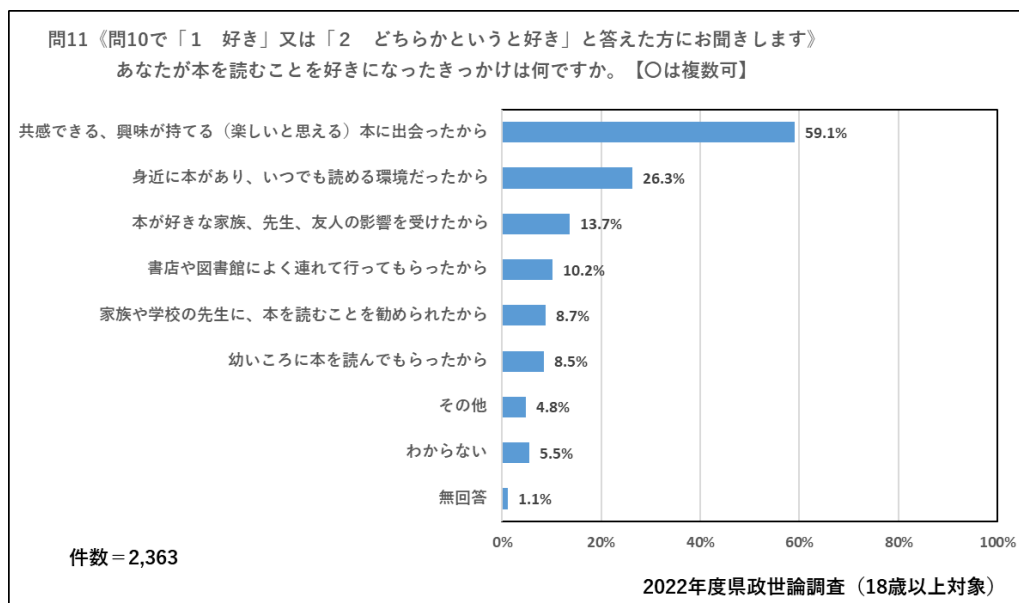
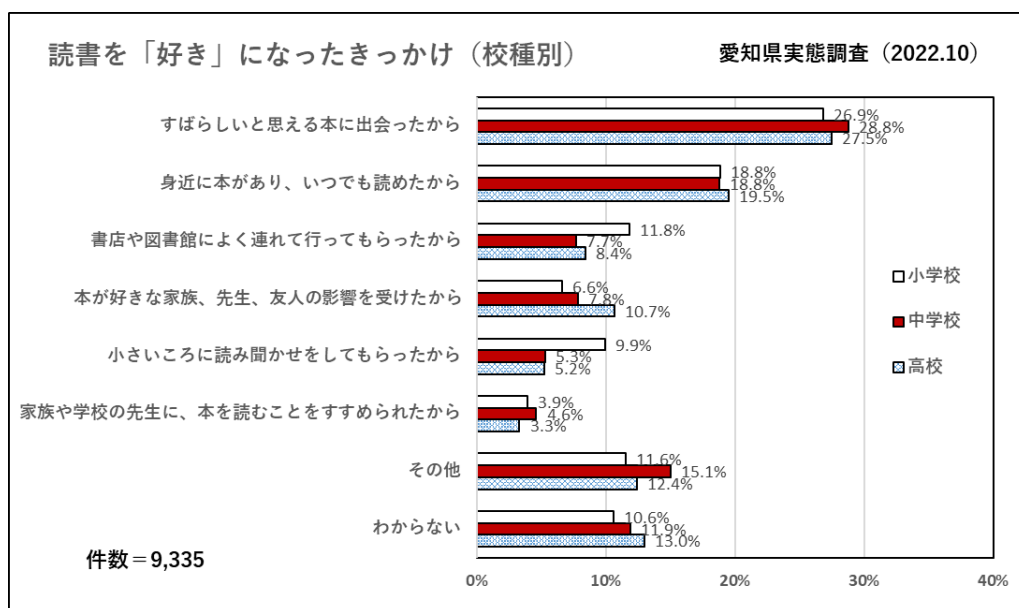
ア 読書が「嫌い」な理由

読書が「嫌い」、「どちらかという嫌い」の理由として、小学生、中学生では「本を読んでも楽しくないから(小 22.7%、中 23.7%)」、高校生では「本を読む習慣がないから(36.1%)」が最も多い回答でした。これは5年前の調査とほぼ同じ傾向です。一方、子供全体で見ると、5年前より「本を読んでも楽しくないから」という回答は若干上昇し(18.8%→20.3%)、「本を読むよりもインターネットやスマートフォンの方が利用しやすいから」という回答が大きく上昇(14.8%→21.1%)しているのも特徴です。



イ 読書を「好き」になったきっかけ

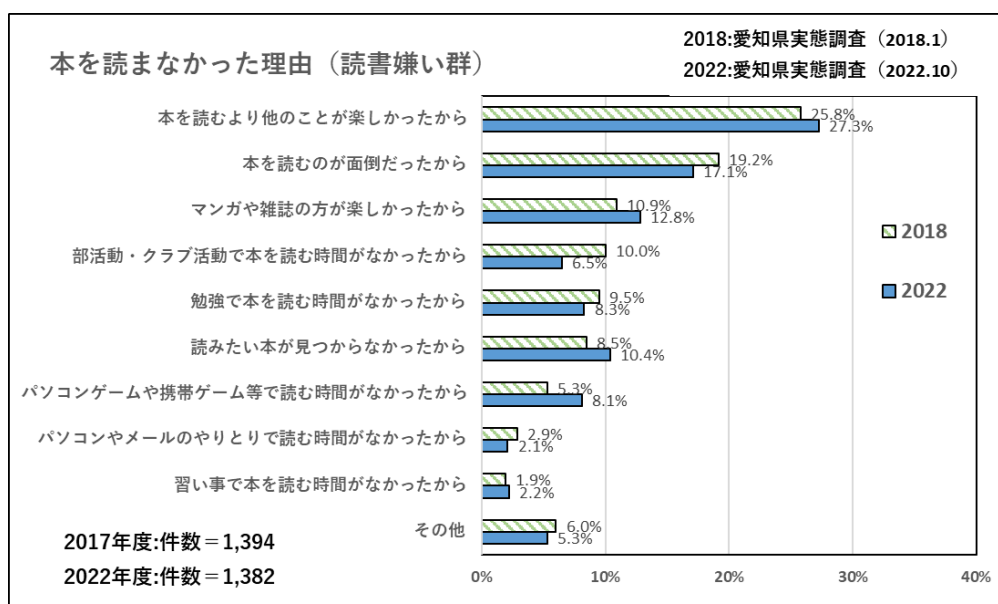
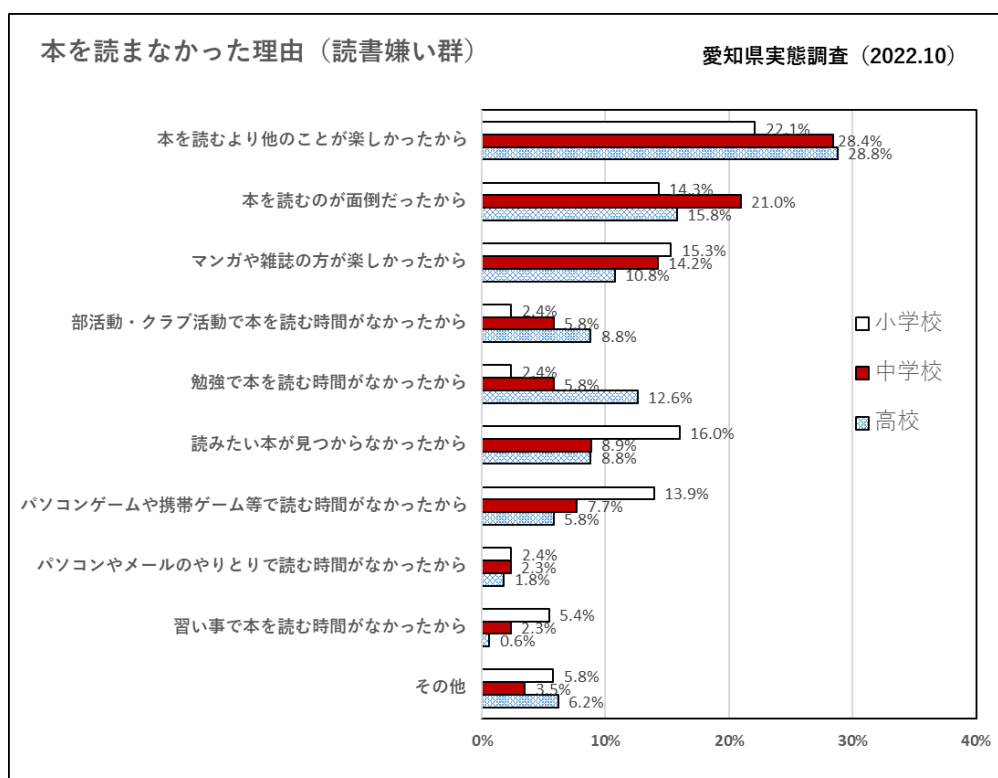
読書が「好き」、「どちらかという好き」になったきっかけについては、小学生、中学生、高校生とも「素晴らしいと思える本と出会ったから」の割合が最も高くなっています(小 26.9%、中 28.8%、高 27.5%)。また、「その他」「わからない」を除けば、いずれも「身近に本があり、いつでも読めたから」が次に多くなっています(小 18.8%、中 18.8%、高 19.5%)。これは18歳以上の一般県民に対する調査(複数回答可、選択肢は一部不一致)結果とも重なります。次いで、小学生は「書店や図書館によく連れて行ってもらったから(小 11.8%)」、中・高校生は「本が好きな家族、先生、友人の影響を受けたから(中 7.8%、高 10.7%)」が続きます。



(2) 1か月に1冊も本を読まなかった理由

ア 読書嫌い群の分析

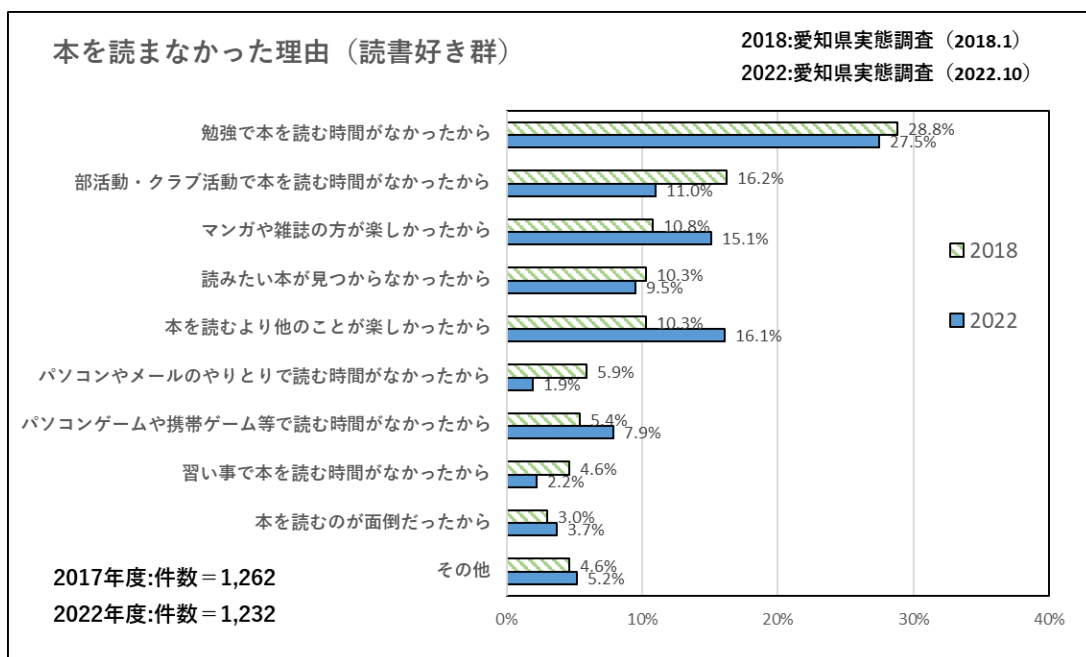
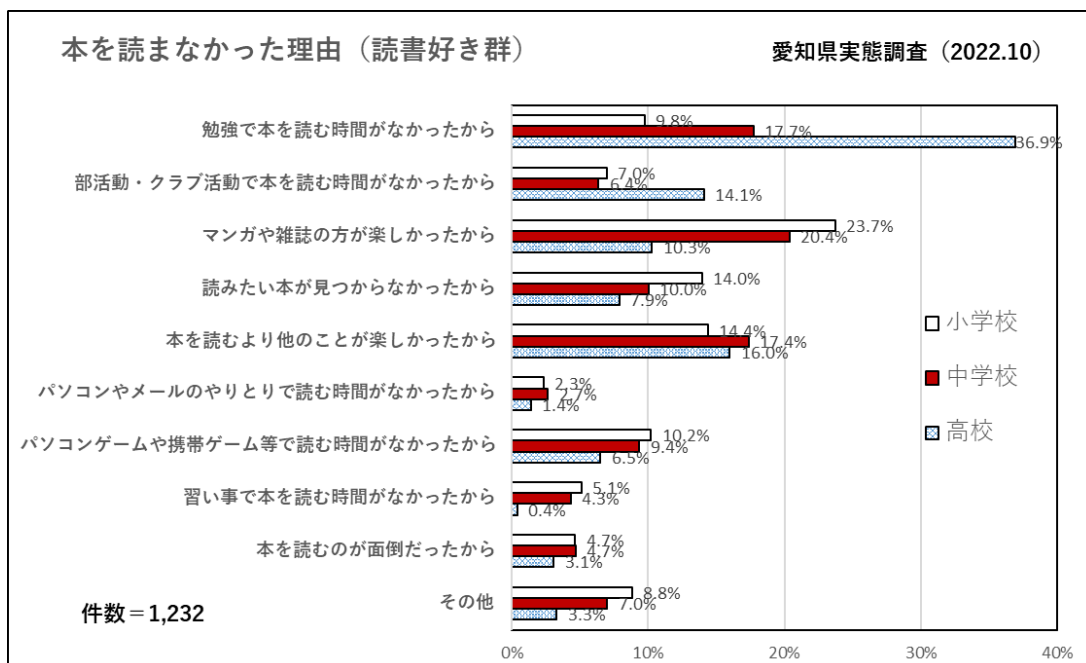
中学校、高校では、「本を読むより他のことが楽しかったから」を理由に挙げる子供の割合が5年前より高くなっています。(中 26.4%→28.4%、高 25.5%→28.8%) 全校種で「パソコンゲームや携帯ゲーム等で読む時間がなかったから」の割合が高くなっており、スマートフォン等の普及が子供たちの生活に大きな影響を与えている可能性があります。(小 12.8%→13.9%、中 5.2%→7.7%、高 3.8%→5.8%)



イ 読書好き群の分析

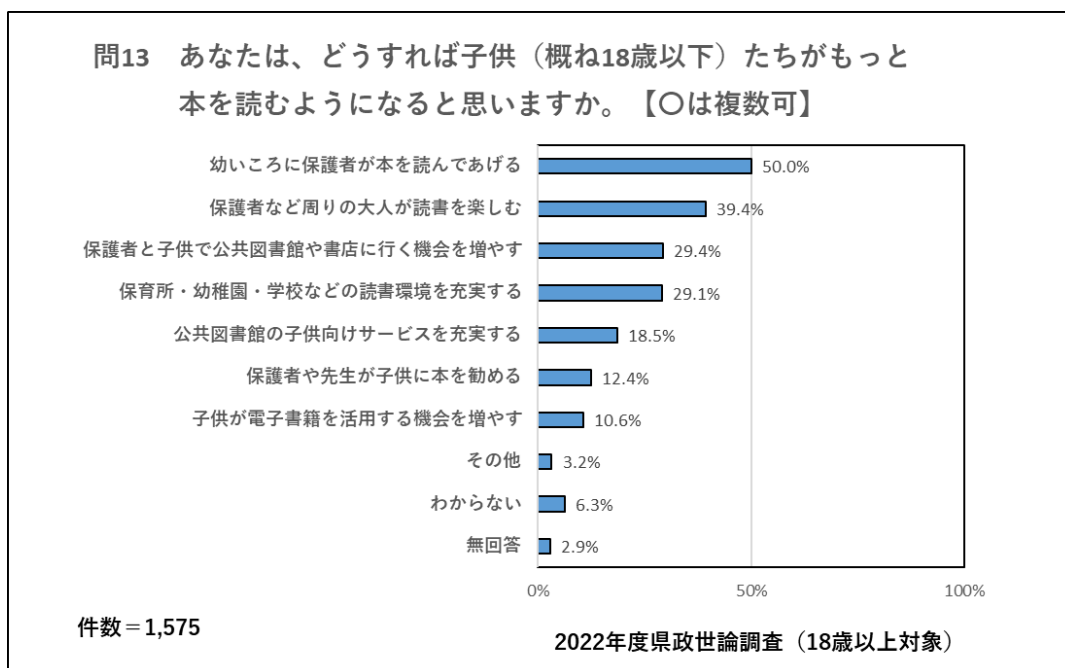
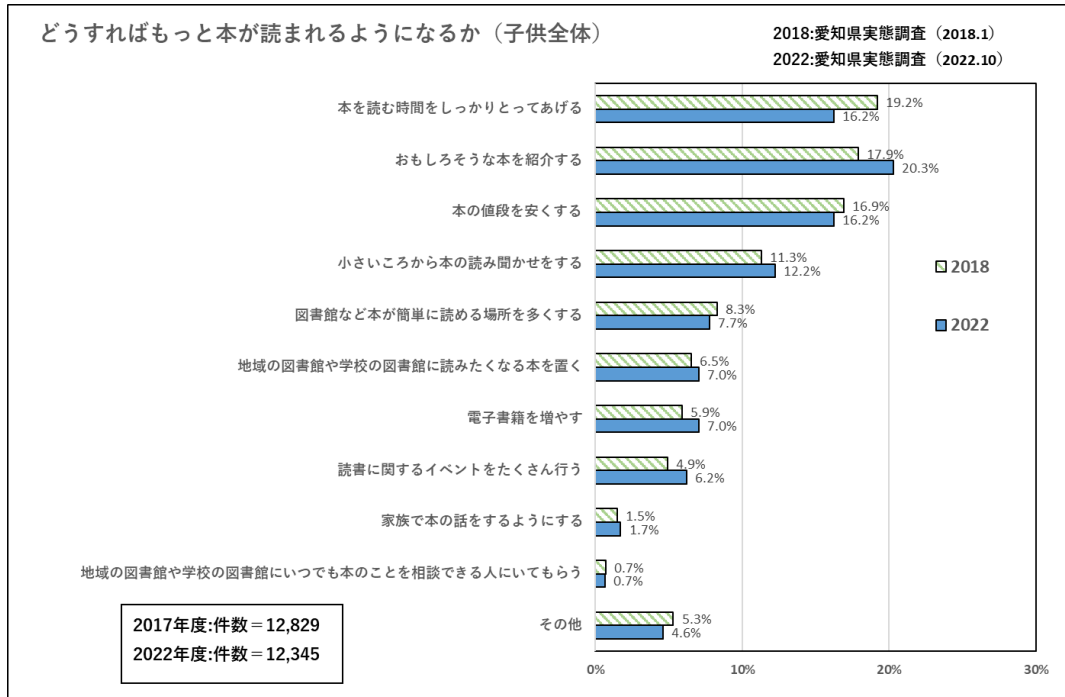
小学生、中学生では、「マンガや雑誌の方が楽しかったから（小 23.7%、中 20.4%）」、高校生では「勉強で本を読む時間がなかったから（36.9%）」が最も高くなっています。

特に高校生については、51.0%の生徒が読書よりも学習や部活動等を優先している現状が確認できました。全体を見ても、「勉強で本を読む時間がなかったから（27.5%）」が最も多い答えでした。



(3) 望まれる不読改善の方法

「どうすればもっと本が読まれるようになるか」という質問に対しては、「おもしろそうな本を紹介する (20.3%)」「小さいころから本の読み聞かせをする (12.2%)」を挙げる子供の割合が5年前の調査と比べ高くなっています。18歳以上の一般県民に対して同様の質問(複数回答可、選択肢は一部不一致)をしたところ、「幼いころに保護者が本を読んであげる (50.0%)」「保護者など周りの大人が読書を楽しむ (39.4%)」などが多く挙げられました。



4 第四次推進計画（改定版）に向けた課題

全校種において、子供がもっと本を読むように、子供の読書が好きという気持ちを育むとともに、読書習慣を定着させ、読書時間を確保する取組が必要となっています。

◆ 家庭

- 子供が小さい頃の家庭における読み聞かせの大切さを、より多くの保護者に伝える必要があります。

◆ 地域

- 子供の様々なニーズに応え、積極的に利用される魅力ある公立図書館運営が望まれます。
- 図書館が設置されていない市町村では、公民館や児童館における子供の読書活動を推進する取組の充実が望まれます。
- 地域の核となる読書ボランティアの活性化と資質向上が望まれます。

◆ 学校等

- 子供の生活の中で一定の読書時間を提供する一斉読書活動を引き続き推進していく必要があります。高等学校においても可能な範囲で実施することが望まれます。
- 子供に最も身近な学校図書館は、蔵書のデータベース化により利便性が向上した今、資料の充実やボランティア受入れを含めた人的配置、情報発信の充実などを図っていく必要があります。

◆ 普及啓発活動

- 「子ども読書の日」等で実施されている読書に関する様々な行事やイベントが、工夫され、継続して実施されることが望まれます。

◆ 関係機関・団体の連携・協力

- 公立図書館間で必要な資料・情報等のやり取りを進めるとともに、公立図書館間のみならず、学校図書館や民間団体等との館種・業種を越えた交流機会の提供、連携の提案など、子供の読書活動に関わる全ての関係機関・団体間の人的ネットワーク作りを推進することが望まれます。
- 公立図書館は、学校図書館の担当者と十分連携を図りながら、学校図書館の運営を支援していくことが望まれます。
- 子供の読書活動に関わる人々に対して、情報提供や、情報交換の機会設定に一層努める必要があります。

◆ 推進体制

- 各市町村は、市町村推進計画を策定し、適宜更新しながら実情に即した施策を講じていく必要があります。
- 家庭や社会全体における読書を推進することにより、子供の読書活動を促進していく必要があります。